



情報おきたま



置賜教育事務所
指導課だより
令和8年3月 No.136

第2回置賜切れ目ない支援連携協議会

R8.2.12

(兼)第2回不登校児童生徒の自立支援に係る地区ネットワーク会議

特別な支援を必要とする子ども達に対する就学前から社会参加までの切れ目ない支援と義務教育段階における不登校児童生徒の社会的な自立を目指し、市町教委、福祉部局、各教育機関、医療分野、民間支援団体が一堂に会し協議しました。前半に民間支援団体の方、各市町教委の指導主事から、現状について報告いただきました。後半は、「特別な支援が必要な子どもの支援」「不登校支援の取組み」「学校（市町教委）と各関係機関・民間支援団体との連携」の3つのテーマでグループ協議を行いました。

合同開催となり2年目の今年は、関係づくりや情報共有の土台が構築されてきています。次年度も、それぞれの機関の強みを生かしながら、子どもや家庭への支援がより一層充実するよう、具体的な連携の形を考えていきたいと思えます。

以下に当日の協議内容を含め、子どもを中心としたよりよい支援を行うために大切にしたい視点をまとめます。



早期支援の強化・保護者支援の充実

乳幼児期からの支援の引継ぎや5歳児検診の場が、就学支援を考えるための重要な機会になっています。

また、保護者の話を丁寧に聞き、安心して相談できる関係をつくり、保護者と共に支援を考えていくことが大切です。

チーム支援

不登校は、増加・低年齢化している傾向にあります。不登校の未然防止の取組みや早期発見・早期対応を「チーム学校」として取り組み、一人一人に応じた支援が検討されています。

子ども達自身が学び方や学ぶ場を選択し、決定する視点も大切に支援を進めていきたいものです。

園や学校と他機関連携

各園や学校と、支援センターや民間支援団体、SCやSSWCなどが連携しながら、多様な支援が進められています。児童・生徒を丁寧に見つめ、それぞれの分野で、その子のためにできる**発達段階に応じた支援**を検討していく必要性があります。

ICTの有効活用

ICTの活用によって、教室以外でも授業を受けることができるなど、不登校児童・生徒への支援が充実してきています。

また、特別支援教育の面においても、ICTの活用は、誰一人取り残さない教育の実現に向けた有効なツールとなりそうです。

引継ぎ・自己理解の促進

切れ目なく支援を行っていくには、情報・有効な支援の引継ぎが重要です。個別の教育支援計画に、合理的配慮の記載をしている学校が多くなっています。発達段階に合わせて、**子ども達自身が自己理解を深め**、将来必要に応じて合理的配慮を自ら求めていけるように、育てていくことが大切です。「やまがたサポートファイル」の活用も有効です。(スタンダード版、セルフ版があります。)

一次支援の充実

特別な配慮が必要な子ども達の状況は、多様化・複雑化しています。全ての先生方が、**ユニバーサルデザインを意識した支援や関わりなどについて理解を深め**、「一次支援の充実」を図ることが必要です。



誰一人取り残さない授業づくり研修会（兼） 第3回 教科担任マイスターベーシック研修会

本研修会は、53名（53校/63校）の研究主任や学習指導担当の先生方にご参加いただきました。「誰一人取り残さない授業づくりプロジェクト（誰P）」パイロット校の先生と、「教科担任マイスター制度」重点校の教科担任マイスターの先生をパネリストに迎え、パネルディスカッションを行いました。

FUN TO THINK♪ FUN TO TRY! どう進める？校内研&ICT活用

伴走型支援は どうして安心感があつた？

研究に取り組む仲間が増えたようだった。
いっしょに進められて、安心感があつた。
指導案の構想段階から相談することができた。

校内研を進める時
不安なことは？



共通理解を図るために
大切にしたいことは？

方向性があるか
校内で共通理解が図られているか
そもそも正解が分からない



- ◆子ども達が自分たちから関わられるようになった。
- ◆教師も手元で子どもの考えがわかるので、どのように子ども同士をつなぐか考えることができる。
- ◆「友達の考えも参考にしたい」という安心感のある環境をつくることができた。

授業でICTを活用する メリットは？

研修を終えた、
主任層の先生方に
聞きました！
来年度チャレンジしたいこと



次年度への「一歩」：みんなのチャレンジ可視化マップ

「誰一人取り残さない授業づくり」研修会のリフレクションをまとめたものです。
「一人の100歩より、100人の一歩」を合言葉に、
ICT活用、子どもへの委ね、そして職員室の対話という3つの側面から、次年度の挑戦を可視化します。

子どもが主役になる 「授業のアップデート」



☆ ICTを「文房具」のように使いこなす
失敗を恐れず、PadletやFigJamを子どもと
一緒に試行錯誤しながら使ってみる。

☆ 教えるから「委ねる」へのシフト
「どうする？」と問いかけ、学びのハンドル
を握る子ども自身の伴走者を目指す。

☆ 「教えすぎない勇気」を持つ
子どもの「やりたい」を引き出す問いづくり
に挑戦し、子どもの学びを支える。



支え合い、高め合う 「職員室の文化」



☆ フラットに語り合える対話の土台
若手もベテランも、授業の成功や失敗を
日常的にシェアできる安心感を醸成する。



☆ 持続可能な「日常的」な授業改善
研究発表のためではなく、日々の小さな
気づきから着実にアップデートしていく。

☆ 「働きやすさ」と「働きがい」の両立
一人で抱え込まず、みんなで楽しみながら
同じビジョンに向かう。



パイロット校や教科担任マイスターの取組みは、これまでも伴走型支援通信「Okitama Challenge Notes」で紹介してきました。取組みの詳細は、そちらをご覧ください。

R 8 置賜教育事務所における 研修会のお知らせ

講師が決定している研修会のみ掲載しました。
先生方一人ひとりの研修機会の確保とともに、
学校課題解決に向けて、
研修をご活用ください。



第1回資質・能力向上研究協議会

- ◇期日 5月18日(月) PM
悉皆 参集型
- ◇講師 加賀市教育委員会事務局
事務局長 小林 湧 氏
- ◇テーマ 「『子どもも教師もともに学ぶ校内研究』をどうデザインするか？」(仮)

特別支援教育研修会

- ◇期日 6月4日(木) PM
オンライン型
- ◇講師 学校法人・西軽井沢学園
さやか星小学校
校長 青木 高光
- ◇テーマ 「ICT×インクルーシブ教育
一次支援の充実を図る」(仮)

学びの未来共創研修会

- ◇期日 7月9日(木) PM
校長：悉皆 参集型
希望者：オンライン型
- ◇講師 独立行政法人教職員支援機構
審議役 島谷 千春 氏
- ◇テーマ 「子どもを主語にした学校づくり
～子どもの姿から学びの姿を
構想する～」(仮)

特別活動オープン講座

- ◇期日 9月24日(木) PM
参集型
- ◇講師 國學院大學人間開発学部
教授 杉田 洋 氏
- ◇テーマ 「学級活動を通じた望ましい人間
関係づくりや、誰一人取り残さない
学級づくりについて」(仮)

第1回置賜地区いじめ・ 不登校防止連絡協議会

- ◇期日 5月25日(木) PM
悉皆 オンライン型
- ◇講師 兵庫県立大学
教授 竹内 和雄 氏
- ◇テーマ 「SNSを介したいじめを
重大化させないために・・・」(仮)

第2回置賜地区いじめ・ 不登校防止連絡協議会

- ◇期日 10月7日(水) PM
悉皆 参集型
- ◇講師 十文字学園女子大学
教授 浅見 哲也 氏
- ◇テーマ 「道徳科を要とした
道徳教育の進め方について」(仮)

山形県幼児教育研究協議会

- ◇期日 8月3日(月)
PM ハイブリット型
(AM 分科会 参集型)
- ◇講師 東京大学大学院教育学研究科
准教授 一柳 智紀 氏
- ◇テーマ 「幼小接続を踏まえた
指導について」(仮)

幼保小接続推進のための研修会

- ◇期日 10月30日(金) PM
参集型
- ◇講師 山形大学学術研究院
教授 野口 徹 氏
- ◇テーマ 「幼保小で育む資質・能力の
円滑な接続について」(仮)

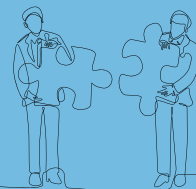
令和8年度4月に「おきたまの教育」を各学校にお届けします。誰一人取り残さない教育の実現に向け、職員室でワイワイと語り合う(対話する)一助としてご活用ください。

令和7年度「情報おきたま」をお読みいただき、ありがとうございました。令和8年度も「置賜の先生方が読みたくなる」をモットーに発行してまいります。来年度もよろしくお願ひします。

すべての子どもに 自ら学びをつくっていきける姿を

FUN TO THINK♪ FUN TO TRY!

R8年度 誰一人取り残さない 授業づくりプロジェクト (誰P)



令和8年度 置賜教育事務所

誰P パイロット校 募集中

子ども主体の学びをつくる

募集締め切り

4 / 2 3 木

「誰一人取り残さない授業づくり」のプロジェクト理念
「すべての子どもに 自ら学びをつくっていきける姿を」
実現するために、置賜教育事務所の指導主事と協働し、
校内研究を推進する学校を募集します。
「子どもに学びを委ねるってどういうこと？」
「ICTを活用して本質的な学びに迫るにはどうすれば？」
いっしょに悩みながら、チャレンジしてみませんか？



共創

POINT 1 /

1年間の伴走型支援
～個人ベースで支援します～

指導主事が、授業構想から授業づくりに関わります。授業者の思いを出発点に、子どもの力を伸ばす授業について、ともに考えます。



POINT 2 /

校内研を日々の授業改善につなげる

授業研究会の授業を「特別な授業」にせず、日々の授業につなげる方法をとともに考え、校内研究を推進することができるよう、支援します。



POINT 3 /

チャレンジ大歓迎

「子どもに学びを委ねる」授業のスタイルは様々です。「完璧な授業」ではなく、教師のやり直しも視野に入れながら、授業をアップデートしませんか？
チャレンジしたい授業がある先生、大歓迎です！

募集校数

置賜管内小・中学校から2校

募集条件

- ・「おきたまの教育」の理念に賛同し、置賜教育事務所で目指す授業の具体を協働で研究できる学校
- ・計画指導に該当しない学校
- ・市町教育委員会の委託を受けていない学校
- ・「教科担任マイスター制度（配置校）」は応募可能

山形県教育局 置賜教育事務所指導課
☎ 0238-88-8240

担当：指導主事 穴戸春奈
✉ shishidoh@pref.yamagata.jp